



善正寺だより

〒:512-0902
 三重県四日市市
 小杉町1014
 浄土真宗
 本願寺派
 善正寺
 TEL:0593-31-1670
 FAX:0593-32-0733

掲示板法話

我が言葉は恐ろしい 仏法こそ我が心の司令塔



閣僚など、責任ある立場の人の失言がしばしば問題になる。「信なくば立たず」だから辞職は当然でしょう。だが、報道を見てはまずいことを心の中で思うことはないだろうか? 「こんなことを言つては恥ずかしい」という理性のブレーキが利くのかどうか、が問題だろう。いつか、「恥ずかしい、日に日に薄くなりました」という標語をあるお寺の掲示板で見ることがある。恥ずかしさを知らないのは畜生道の姿だ、という慚愧の心がこの標語の裏側に隠されている。

昔、山口県萩市に河村ふでさんという篤信の念仏者がおられた。この人が世に知られるようになったのは、東京生まれの元クリスチャン・河村とし子先生で、戦時中疎開でご主人の実家に身を寄せた頃、おばあちゃんの人柄にいつしか打たれ、一緒にお寺へ聴聞に通うようになった。戦争で次々と息子さんたちが戦死されたのだが、悲しみの様子があまり見えないのを不思議に思い、「おばあちゃん、お寂しくはありませんか?」と尋ねたら、「ないもの

を欲しがらずに、あるものを喜ばせてもらおうよのう」と自分自身に言い聞かせるようにおばあちゃんはずぶやいた。それを聞いて、いつしか深い尊敬の情が沸いたという。

ある日、一緒に草取りをしていたとき、「言葉というものは恐ろしいものよ。自分の口から出た時は一寸釘(3センチ)位のように思える言葉でも、人さまの胸に突き刺されば、三寸釘(9センチ)にも五寸釘(15センチ)にもなるから、う、気をつけにやいけんよのう」と言われたという。おばあちゃんから日常聞いた言葉の数々は、河村とし子先生(萩女子短大創設者)の講演などを通して広く世に知られるようになった。

ふでさんは仏法聴聞により、人間の心の奥底にある「自己中心性」という心の闇を深く見つめる眼が育てられた。だから、自分の言葉に気を付けるよう心掛けておられたのだろう。

言葉の司令塔はわが心です。我が心の闇は、仏様と言う智慧の鏡に照らされて初めて自覚され、理性のブレーキがかかるようになります。人さまの発

言をとやかく言わずに、何よりも自分のモノサシの狭さに気づき、「み仏さまのモノサシこそ我が心の司令塔だ」と腹を据えて生きたいと思えます。

写真アラカルト

5/11 西本願寺伝灯奉告法要40名参拝



☆行事ご案内☆

◇門信徒会：6月18日(日)夜7時半

- ① 伝灯奉告法要団体参拝(5/11)の印象、感想等披露。
- ② 「法座で和讃を読みましょう」のお勧め。「ご和讃」の味わい
- ③ 夏の諸行事について(他所巡回、孟蘭盆会など)

◇絵手紙教室 6月13日(火)午前10時、22回目川崎光子先生

◇キッズサンガ6月3日(土)4時 鐘撞き夕方5時、年中無休

◇「三重組仏教講習会」 6/14覚照寺様、6/15正久寺様、6/16延長寺様、講師：白川晴頭先生(広島)

◇全国布教同志会主催、「全国布教・東京大会」in築地本願寺
 6月20日(火)午前・午後8名の布教使が次々登壇・住職が会長、坊守も新幹線で日帰り聴聞。同行して頂ける方を募集中!

◇『第2回ファミリーコンサート in善正寺』10月1日(日)午後1時好評に付、稲葉梨恵様と星合智美様の名コンビの3度目の来演。親子で揃ってお楽しみ下さい。入場無料、終了後茶話会あり

◇初参式の赤ちゃん幼児募集! 来年4月21日(土)午後1時善正寺三全仏婦主催、千円。地域の皆で子供の健やかな成長をお祝い。
 善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。
 毎日更新ブログ「住職と坊守のつれづれ日記」好評。開設8年10カ月で23万8千訪問、一日平均90人、悩み相談、大歓迎! 即返信

◇一縁会テレホン法話：059・354・1454お電話下さい3分間の法話が流れます。週替わりで5か寺の僧侶・坊守が担当。

◇新納骨堂：後継者の無い方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所でお困りの方：本堂使用可。寺にご相談下さい。

坊守スケッチ お経を勤める意味

五歳の孫がひらがなを読めるようになり、鐘つき後の仏前のお勤めが楽しくなりました。今までは門前の小僧と同様で、耳から覚えたお経。近頃は子供用聖典を順番に繰り返し読みます。巻末の仏教讃歌まで、仕切り役の孫に従い、家族揃って振り付きで歌います。

でも仏教に無関心な人から見れば、お経は実に退屈なものです。僧侶の早口のお経を聞くだけならば、外国語以上に理解不能。おまけに足のしびれと重なって、いつ終わるのかと時計とにらめっこ。お経は先祖供養の為とか、仏前に座ることで心が落ち着くからと言われても、お経を勤める意味がさっぱり分からず、納得できません。

そもそもお経とは、お釈迦様の説法を弟子たちがまとめたもの。当時のインドの言葉で書かれた教えが、中国に伝わり漢字に置き換えられました。私達が使う経典は殆ど漢字だけ。その漢字から意味することは類推できます。その後日本に伝来して、親鸞聖人により七五調の節の付く和讃に編纂され、誰もが親しみ易い形になりました。

私は散歩時の帰路、和讃を恩徳讃の旧節で三〇首程歌いながら歩いていきます。足取りも軽く疲れも忘れて、終盤お浄土の世界が心に満ちてきます。お経は仏前で勤めるだけとは限りません。いつでもどこでも人生の応援歌になっても不思議ではありません。

ではお釈迦様の教えが、何故「教」ではなく「経」と書くのでしょうか？

経という字には縦という意味があります。布を織る時に何本もの縦糸がしつかり張られた上に横糸を渡していきます。人生を一枚の布に例えるならば、お経は長い歴史の中で伝えられた縦糸の役目。私達の日常生活の出会いと繋がりは横糸の役目。縦糸と横糸がしつかりと結ばれる時、私達の個人主義や閉鎖性が打ち破られ、ご縁の中で生かされる本来の人間の生き方に目覚めます。お経を勤める意味を、しつかりとわが身に受け取りましょう。

ホットニュース

◇5・11西本願寺「伝灯奉告法要」バス団体参拝、40名が参拝しました。
◇新世話方様の選挙で、次の8名が選出されました。(年齢順) 館十三生様、館勤様、佐藤和美様、服部雅之様、館勇次様、服部則男様、服部徹次様、服部和司様。四年間お世話になります。また平成29年度門信徒会会長に館勇次様、会計に服部浩二様、婦人部会長に館正子様、副会長に服部典子様を選出。重ねてよろしくお願ひします。



☆若院夫婦の「育自な毎日」その30

四月末、長男の幼稚園の親子遠足に参加しました。今年の行先は愛知県弥富市の海南こどもの国。昨年は朝から土砂降りの雨で、急遽行先が水族館に変更。今年は上天気に恵まれました。集合写真を撮って解散すると、長男は見たこともない大型遊具に目を奪われ、あつという間にお友だちと走り去って行きました。長女は幼少向けの滑り台を何度も滑りました。周囲は大きい子ばかりなのでしり込み状態。

長男はゴーカートで大汗をかいた後、全長40メートルあるローラー滑り台。続いてラバージャングルという難しそうな遊具に挑戦。その遊具はゴムやロープを使ったもので、高さがありロープの網の上を進むのでスリル満点！長男は何回も挑戦しましたが、敢え無く失敗。立ち往生しては「絶対無理！」と言って戻ってきました。

それからしばらくして帰りの集合時刻間際に「出来たよ！」と大声で呼びました。見に行くと、確かに網の上を渡りロープを下りてきました。「やったねえ！」と達成感いっぱい。長男に声をかけました。

大人には簡単なことでも、子供には大きな一歩。一緒に成功を喜べる幸せを感じました。子育てには苦労はつきものですが、それ以上に子供と共感できる幸せもあります。子どもの成長によって親も育てられる。そんな子育ての喜びを感じた一日でした。(若坊守)

お知らせ&募集

◇第二回ファミリーコンサート決定。10月1日(日)午後一時。稲葉梨恵様、星合智美様の若手アーティストをお迎えして本堂で開催。入場無料、終了後茶話会、親子連れで参加下さい。
◇初参式の赤ちゃん幼児募集！来月4月21日(土)1時、三全仏主催。会費千円、地域の皆さんと子供の健やかな成長をお祝いしましょう。

寄稿

- 四日市市 釈清風
- ※散りてなほ 水面飾るや 花筏
 - ※森林に 鶯鳴きて 一呼吸
 - ※堀端の つつじ紫 水面映え
 - ※朝の野に 蛙一声 空高し
 - ※悠々と 木曾の流れや 風光る
 - ※法被着て 金魚神興や 春惜しむ

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」二八二号をお届けします。◇過日、本願寺の「宗報」編集者から電話、本紙とりわけ「坊守スケッチ」の目線が編集者の間で注目されているとのこと。坊守は勇気をもらったようだ。一方、拙稿の一面法話は他の寺報と同様で「ご苦労さん」という雰囲気らしい。◇上から目線の「教えてやる」という話は読者の心に響かない。そんな問題意識を本山でも持ち始めているようだ。◇「育自」欄から読むという方もあり、それもまたよし。要は、「われも光のうちにあり」と感じつつ生きる。六月築地本願寺の布教大会のテーマでもある。御参詣を。

青葉から初夏を思わせる季節になりました。先日のお燈
奉告法要要団体ご参拝ありがとうございました。昨年の
七五〇回大遠忌法要から続いてのご協力に感謝します。
わずか一年の間でも急速な高齢化が目立ちます。こ
のまま寺の伝統行事が続けられるのか？我が身の
老いも考えると旧来の慣習を打ち破るような改革に
迫られています。「お仏壇も墓も要らない。親や先生、先
輩の忠告さえも耳に入らない。知らないことはネット検
索、スマホで繋がる友達さえいればいい」と豪語する若
者達。しかしその友達もいつ裏切るとも限らない不確かな
関係。将来の夢もない不安な日々を送る若い世代。こん
な時代に寺はどう対応すればいいのでしょうか？八年前に
書いた私のブログが最近人気記事に躍り出ました。料理
評論家の栗原はるみさんの「主婦の心得」の茶山を紹
介した記事。(1)家族の誰よりも早く起きる。(2)お茶を丁寧
に入れる。(3)ガラス窓をきれいに拭く。(4)いつも気持ちいい服装
でいる。(5)夫を玄関まで見送り帰宅時は出迎える。(6)ト
イレはいつも清潔に。(7)季節を飾る。(8)残り物を使って
料理する。(9)家事を楽しくする。(10)夫の家族を大切にす
る。皆さんはいくつ実行していますか？私は6割程。職業
を持つ主婦やおひとり様が当たり前。前の昨今、合格点を
とれる女性には珍しいかも知れません。時代と共に主婦の理
想像は変化します。利他の心を失わず、家族を拝み
合う心だけはいつまでも大切にしたいものです。合掌

平成二十九年六月

善正寺坊守 拝